

**平成24年度第1回
生涯学習教育研究センター運営委員会議事要旨**

○日時：平成24年12月11日（火） 10：30～12：00

○場所：地域国際学習センター3階 304教室（学習相談室）

○議題：【審議事項】

1. 平成25年度公開講座等の募集について
2. 生涯学習教育研究センター研究紀要の編集等について
3. その他

【報告事項】

1. 平成24年度「知のふるさと納税」事業報告
2. 生涯学習教育研究センター企画講座について
3. 生涯学習教育研究センター予算執行状況
4. その他

○出席者：真栄城勉（生涯学習教育研究センター長）、背戸博史（生涯学習教育研究センター教授）、後藤武俊（生涯学習教育研究センター准教授）、李好根（法文学部教授）、森山克子（教育学部講師）、賀数清孝（理学部教授）、青木一雄（医学部教授）、山本健一（工学部准教授）、本村恵二（農学部教授）、西本裕輝（大学教育センター准教授）

○陪席者：我那覇生治（地域連携推進課長）、玉城優里（地域連携推進係 係員）

◆審議事項1 平成25年度公開講座等の募集について

平成25年度公開講座等の募集について、背戸教授より資料1に基づき次のとおり説明があった。

毎年12月に、次年度の公開講座の募集をしている。各年、強化テーマを設定して講座を実施しており、今年度は「震災後の日本の展望」をテーマとした講座を開催した。次年度は「マスメディアをどう読むか」という観点で、新時代の沖縄の展望、地方分権、都市計画、離島振興、観光、沖縄の教育等というようなテーマで講座を企画したいと考えているが、本提案以外のテーマについてもアイデアがあればご意見を頂きたい。

また、「公開講座の実施方針について」では、学部への協力依頼の目安として、各部局単位での提供講座数を定めており、「一般コース」2講座以上、「専門コース」1講座以上としているが、この数が妥当かどうかについてもご意見を頂きたい。

このことについて、以下のような意見があった。

- ・理系の学部については、公開講座を開催する際、専門的な知識をなるべく分かり易く伝えることを目的とするので、専門コースは提供しにくいのではないかと。
- ・専門コースには、専門的な職業の方を対象にした講座、ある程度の知識を前提とした講座、または資格取得など目的を持った講座などが考えられるが、「専門」の定義を明確にしなければ、受講者が遠慮して参加しづらくなるのではないかと。コースの区別をなくして、受講対象をしっかりと管

理する方が受講者にとっては良いのではないか。

- ・「COC 構想」で大学が地域の核となることが期待されているので、地域や自治体と連携した講座を企画してみてもどうか。

審議事項1については、提案のとおり講座の募集および企画を進めることで了承された。また、「公開講座の実施方針」の文面の取扱いについては、今後検討することとなった。また、最後に、真栄城委員長より公開講座および公開授業数の増を図るため、各部局の教授会等を通して多くの教員にアナウンスをして欲しいとの協力依頼があった。

◆審議事項2 生涯学習教育研究センター研究紀要の編集等について

生涯学習教育研究センター研究紀要の編集等について、後藤准教授より資料2に基づき次のとおり説明があった。

今回は実態に合わせた形で投稿規程・編集規程の改定を行い、より投稿しやすいようにした。主な改正点は以下の4点である。

- ①原稿の分量の上限を20,000字程度とする。
- ②注記の例示を削除する。一つの論文の中で注記が統一されておれば良いので、要素だけを挙げ、あえて注記の例示をしないこととした。
- ③今まで、報告については、字句等の変更を求めることはできるが、採否を決定することができないようになっていたため、すべての原稿の採否を決定出来ることとした。
- ④原稿は、随時募集とし、毎年の締め切り日を1月31日と明示する。募集のプロセスを簡素化させるのが目的。

このことについて、以下のような意見があった。

- ・電子情報（インターネット）からの論文の引用についても、要領を追加してはどうか。
- ・各年度のいつから原稿を受け付けるのかを明記した方が良いのではないか。
- ・論文の場合、「著者」ではなく、「筆者」とした方が良いのではないか。

審議事項2については、提案のあった改定と併せて、規程の文言を下記のように修正した上で、ホームページ等で正式に原稿の募集をかけるということでも了承された。

- ・注記の「発行年（西暦）」について、「（西暦）」を削除。
- ・原稿の提出について「原稿は随時募集とする。ただし、各年度の締切は1月31日とする」に修正。

◆報告事項1 平成24年度「知のふるさと納税」事業報告

平成24年度「知のふるさと納税」事業報告について、背戸教授および後藤准教授より資料3に基づき次のとおり報告があり、了承された。

今年度は、宮古および八重山で3つの事業を行った。八重山では中学校・高校へ訪問し、大学生

による交流授業や進路相談会を行った他、父兄を対象とした進路相談会も実施した。宮古においても中学校での交流会・進路相談会および「親のための琉大塾」を開催した。また、宮古では、新規事業として宮古青少年の家との共催で「琉大塾」を実施した。2泊3日の宿泊型のプログラムにおいて寝食を共にする中で、学習指導や体験活動を通して児童・生徒と交流した。どの事業も、大学生の生の声を聞くことができた貴重な機会とのことで、参加者の満足度は高かった。また携わった学生達が目覚ましい成長も実感しており、非常に意義の大きい事業となった。

現在、事業に参加した学生達により、活動報告書の作成が行われている。今後は学生達が持続的な活動ができるようにグループ化・サークル化し、離島出身の学生達が大学に入学した時にスムーズに人間関係を築いていけるような体制に応用できるようにしたいと考えている。また、本事業についても、次年度も継続して実施していく予定である。

◆報告事項2 生涯学習教育研究センター企画講座について

生涯学習教育研究センター企画講座について、後藤准教授より資料4に基づき次のとおり説明があり、提案のとおり企画を進めることで了承された。

本学を退職された先生方に活躍の機会を持って頂くことを目的として企画している「琉球大学の至宝」は今年で5年目となる。昨年度は理系の内容で開催したので、今年度は文系の内容で企画したいと考えている。以下の名誉教授の先生方を候補として提案するが、他にも良い先生がいらっしゃればご推薦頂きたい。

(第1案) 上里賢一先生、安仁屋洋子先生、宮良信詳先生、中村透先生

(第2案) 宜保清一先生、津波高志先生、仲地宗俊先生

また、昨年度より実施した、生涯学習・社会教育関連職員を対象としたワークショップ講座についても、今年度も継続して実施することとしており、3月の実施に向けて担当講師と調整を行っているところである。

◆報告事項3 生涯学習教育研究センター予算執行状況

生涯学習教育研究センター予算執行状況について、我那覇課長より資料5に基づき次のとおり説明があり、了承された。

センター予算全体の執行率は約80%となっている。大学開放事業費（公開講座関連予算）および中期計画達成プロジェクト経費については、12月1日現在で既に100%を越えて執行しており、不足分は教育基盤経費・研究経費等から流用した形となっているのが現状である。

以上